

てらうえいせき 寺上遺跡

所在地 ^{とわだし おおあざあかぬまあざてらのうえ} 十和田市大字赤沼字寺ノ上

時代 ^{じょうもんじだい} 縄文時代

出土遺構 ^{たてあなじゅうきよあと ちよぞうけつ おとしあな} 竪穴住居跡、貯蔵穴、陥穴ほか

出土遺物 ^{じょうもんど き せっき どせいひん} 縄文土器、石器、土製品ほか

報告書名 1999年 寺上発掘調査報告書(十和田市教育委員会)

2002年 寺上遺跡・赤沼備中館跡(十和田市教育委員会)

解説

市街地の南東約3km、^{おいらせがわさがん かがんだんきゅうじょう}奥入瀬川左岸の河岸段丘上にあります。道路工事により遺跡の一部が発掘調査されており、^{ぜんきあとよう まつよう}縄文時代前期後葉～末葉にかけての住居跡や貯蔵穴が発見され^{しゅうらく}集落が存在していたことがわかっています。台地の^{えんべんが かいづか}縁辺部には貝塚が存在していたとされており、貝類の一部が十和田市郷土館に保存されています。

遺物は縄文時代^{そうき ぜんき}早期～前期の土器、石器、土製品などが出土しました。^{ぜんきちゅうよう}縄文時代前期中葉(約6000年前)に降り積もった^{とわだかざん}十和田火山の火山灰の下から、^{そうき ちゅうよう}縄文早期～前期中葉の土器、石器が数多く出土しており、本市の縄文時代のはじまりを知る上でも重要な遺跡となっています。



^{せんていどき}尖底土器(縄文時代早期)



竪穴住居跡(縄文時代前期末葉)